
時を待つ

御劔剣次

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
時を待つ

【Nコード】
N9794A

【作者名】
御劔剣次

【あらすじ】
なんとなく『600文字ちょうで小説書けないかな』と思って、書いてみました。しかし、かなり詩的表現になりました。内容は意味不ですが、突っ込まないでください。

俺は、待っていた。

ただひたすらに、来ることのない時を。

「待つよりほかはない」

そう自分に言い聞かせて。

今日はいいことがあった。

この薄暗い部屋に鳥が舞い込んできた。

その鳥は入ってきた場所を忘れ、部屋の中をさまよっていた。

その鳥に、出口の窓を教えてやると、ありがとう、と言って、窓から飛び去った。

ただそれだけでも、十分にうれしい。

この何もない場所で、何かが起こったのだから。

今日は外に出てみよう。

もしかしたら、来ない何かが来るかもしれない。

期待はするが、希望は持たない。

どうせまた、来ないのだから。

外は、空気が冷たかった。

白い息が、出るほどに。

来ることのない時も、きっとこんな感じなのだろうと、目を瞑る。

決して、その時は来ないと分かっている。

それでもいい。

待つ。

それだけが俺の存在理由だから。

たかが知れた、人の力。

来ない時は、それが好きだ。

「どうしてわかる」

「さあね」

俺と、仲間の、ちょっとした時間。

「久しぶりの外だ。たつぷりと満喫しておけ。じゃないとまた鳥の幻覚を見るぞ」

「それはやだなあ。ちゃんと深呼吸しとこ」
空気は、冷たい。

この鉄の船の外側は、こんなに寒かったのか。これだけ寒かったら、来ない時は凍り付くかな。

それを仲間に聞いたら、笑った。

(後書き)

実際に600ぴっ
たりです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9794a/>

時を待つ

2010年10月13日04時44分発行